

**組合に相談しよう**  
 不払い相談、融資・税金相談、教育資金、サラ金、生活保護、社保未加入問題…  
**練馬支部 03-3825-5522**



定価三十円

購読料は組合費に含まれています。

発行所  
 東京土建一般労働組合  
 城北ブロック会議  
 東京都豊島区西池袋5-22-15  
 板橋(3963)5325  
 練馬(3825)5522  
 豊島(3986)2471  
 北(3902)7121  
 発行人 代表者 川合 正人  
 発行日1日、9日、17日、25日

# 「今のやり方で十分」マイナカードの実態学ぶ 支部活動者会議



支部活動者会議でマイナ保険証の実態を学ぶ参加者

現行の健康保険証の新規発行が終了する12月2日までに3カ月を切りました。国は保険証とマイナカードの一体化を推し進めていますが、厚生労働省によれば、直近(7月)のマイナ保険証利用率は11・13%。利用者の9割弱は、マイナ保険証ではなく今の保険証を医療機関や薬局の窓口で見せていました。

「病院や薬局でマイナ保険証への移行を勧められた」「かかりつけ医からシステム障害を恐れ、(カード保有者に交付される)『資格情報のお知らせ』も窓口で提示してほしいと言われた」と、連日支部事務所に相談が寄せられ、仲間や家族の混乱ぶりがうかがえます。東京土建国民健康保険組合の場合、現行の保険証は来年3月31日まで有効。その後はマイナカードの有無によって交付される書類が異なるものの、医療を受けられることに変わりはありません。

「任意」だから国は責任取らない  
 1日に区立区民・産業プラザコネクトホールで開いた支部活動者会議(180人参加)は、マイナ保険証が暮らしに与える影響をテーマに据えて、本部の田村彰宏専従常任中央執行委員が講演。「マイナンバー」は日本に住民票を持つ全ての人に12桁の番号が割り当てられ、法律で国や地方自治体などの責任を明確にしています。マイナンバーは強制だが、「マイナンバーカード」の取得は任意。このためなりすましや情報漏えいなどの被害に遭って、国は責任を負わない(田村専従常任中執)ことに。参加した仲間はマイナカードを作ら

なくても、加入先の健康保険組合などが資格確認書を交付し、それが保険証の代わりになると聞き「今のやり方で十分」「保険証を巡る情報が錯綜している中、正確なことが分かってよかった」などと話していました。

同会議に先立って8月、練馬区議会議員宛てに「国に対し、当面の間現行の健康保険証とマイナ保険証の両立を求める意見書の提出を求める」

## 現行の保険証新規発行終了まで3カ月 マイナのワナ

陳情書 加えて各専門部会や健康教室などで集めた署名を提出。支部社会保障対策部担当の佐々木一輝書記と共に議会事務局を訪ねた三角真弓国保対策委員長(副委員長)は「このまま(マイナカード)強化され、日本が世界に誇る国民皆保険制度の崩壊につながる」と語気を強めていました。

同月、岸田文雄首相自民党総裁(は総裁選(9月27日投票)への不出馬を表明。次期首相の座を狙い、続々と名乗りを上げていますが、この中でマイナ保険証の扱いも争点に浮上しています。岸田政権の閣僚の間でも健康保険証を「予定通り廃止」「廃止時期の見直しを検討」と食い違っており、ここに来て迷走ぶりを露呈。今後の動きに十分注意しなければなりません。



デジタル庁前抗議行動に参加した左から宮下由記子さん、赤堀本和さん、須藤太久江さん

### 保険証問題のポイント

マイナ保険証の取得はあくまで「任意」だが、マイナ保険証がなくても「資格確認書」が保険証の代わりにマイナ保険証保有者には「資格情報のお知らせ」を交付。ただし、医療機関や薬局によってはシステム上のトラブルなどでこのお知らせの提示を求めるとも、マイナ保険証はカードに内蔵された電子証明書の有効期限(5年)にも注意。マイナ保険証でもこれまで通り家族の加入や脱退、住所変更などの手続きが必要。

秋の拡大月間(10月31日まで)は一足先に幕を開け、練馬支部の目標は月間219人、年間275人です。小玉祥子組織部長は同会議で「フェスタを機に11月の分会対抗ソフトボール大会や住宅デーなどへの参加につなげ組織強化拡大に取り組み」と呼び掛けていました。

### 組織強化、拡大も 見据えて

#### 秋の拡大月間

練馬支部65周年どけんねりまフェスタ2024はいよいよ29日、都立光が丘公園芝生広場で開幕します。1日に行われた支部活動者会議でもフェスタに向けた議論を進め、「全員で奮闘したい」(早宮分会)、「後継者世代の仲間を呼び込み、集ませたい」(北事業)の声を聞かれました。



「さあ、光が丘に結集だ」  
 フェスタや拡大月間などの進め方を話し合う参加者

このコロナ  
 △書きは酒が好きた。  
 その味を覚えたのは20歳。未成年者飲酒禁止法を守ったとこで誓う。あの時、何を話したか。どの酒席も気分が高揚し、感情が理性を一步も、二歩もリードするところが、1人ではほとんど飲まない。同じ酒なのに味の良さが半減する。新型コロナの影響により外出自粛が叫ばれていた中、オンライン飲み会に参加したが、これまた味気ない。詰まるところ、酒の味を引き出すのは他者との直接交流か。29日開幕の練馬支部65周年どけんねりまフェスタ2024はコロナ禍後、仲間や家族のほか、地域住民も参加する最大のイベント。各分会で準備に明け暮れているが、その原動力は喜びと感動を分かち合おうとの思いだろう。1人より2人。2人より3人…。人とのつながりが個人、ひいては社会を変えると、積み重ねてきた65年の歴史も太鼓判を押す。会場の光が丘公園でどんな美酒が味わえるか。その出会いが待ち遠しい。ただ飲み過ぎれば「毒」へと様変わり。その点はのんびりの一人として重々承知しているが…。(今)

(今)



